

2018年度事業報告

社会福祉法人 椿福社会

1 はじめに

椿福社会では、1994年に1か所目のグループホームを開所して以来、現在7か所のホームを運営している。その中には老朽化が目立つ賃借建物のホームもあることから、利用者の住環境を整えるために、グループホームの整備に取り組み、鶴見区安田に法人で不動産を取得した。

また、介護専門学校の減少、学生数の減少傾向の影響もあり、職員の確保については、2018年度は厳しい雇用状況が続いた

2 法人事業の概要（2019年3月31日現在）

2019年3月31日現在の法人事業の定員、利用契約者数は次のとおりである。

施設事業所名	事業名	定員（人）	利用契約者数（人）	前年同期（人）
つるみの郷	施設入所支援	40	40	40
	生活介護	40	40	40
	短期入所	4	21	19（0）
ワークセンター つるみの郷	生活介護	20	23	24
	就労継続支援B型	20	26	27
つるみ更生指導所	生活介護	20	20	23
	日中一時	7	0	2
生活支援センター ひまわり	計画相談		124	126
	地域移行		0	0
	地域定着		11	7
グループホームつばき	共同生活援助	38	36	36
ホームヘルプセンター ひまわり	居宅介護		28	27
	行動援護		9	7
	移動支援		64	60
	重度訪問介護		0	1
	訪問介護		2	0

3 活動報告

（1）人材確保に向けた取り組み

2018年4月は新卒採用ができなかった。次年度に向けて学校訪問や学校での就職説明会への参加や積極的に実習を受け入れるなど学校とのパイプ作りに努め、2019年4月には、栄養士1名、支援員3名の新卒採用に結びついた。

できるだけ安定した雇用のもとで法人事業に責任を負う立場の職員を確保する趣旨で、非常勤職員の正規職員への登用制度を継続しているが、2018年10月採用及び2019年4月採用の登用希望者はなかった。

(2) 人材育成に向けた取り組み

研修部会を中心に新人研修、人権研修、中堅研修などの法人主催研修を実施した。
また、それぞれの事業所では、職員会議の時間などを利用した施設内研修の実施や外部研修への参加で職員の資質向上に努めた。

(3) 組織力の強化の取り組み

法人の資産及び資金の本部での一元管理および法人事業全体の請求事務、会計処理、給与計算事務の本部での処理は一応達成することができた。

本部事務局は事務局長1名、職員1名の2名体制で実務を行ってきたが、非常勤の事務職員を1名補充した。

(4) 施設整備と新規事業に関する取り組み

老朽化したグループホームの整備について、鶴見区安田にグループホームに適した物件が見つかったため、理事会で購入を決定し、自己資金と銀行借入れにより資金を手当てして、8月8日に購入した。傷みの目立つ城東区内の2ヶ所のホームを移転して、2階、3階に各階定員5名、短期入所2名の2ユニットのグループホームとして、12月1日に開所した。

(5) 地域との交流、情報発信

11月に行った文化祭では、地域の事業所にも模擬店出店をしていただいたことでより多くの地域関係者、団体との交流をはかる場とすることができた。

茨田東連合町会のネットワーク委員会に毎月参加して、地域の情報共有に努めた。

短大、介護専門学校等の実習生の受入れを積極的に行った。つるみの郷の介護実習から就職希望に結びつき、2019年4月の採用内定者2名を出すことができた。

4 研修の状況

2018年度は研修部会で研修計画を立て、職員の資質の向上及び支援の質の向上を図るため、法人主催研修として新人研修、人権研修その他の研修を次のとおり行った。

日時	内容	研修種別	講師	参加者
7月25日	・椿福祉会の歴史について	新人研修	寺谷 博 常務理事	9名
9月7日	・ライフステージから見た支援のポイント	人権研修	浅野小五郎 理事長	30名
11月28日	・事例検討	実践交流会	ワークセンターつるみの郷	16名
12月4日	・共感的理解について	人権研修	津田 耕一 先生	30名
1月31日	・地域移行に向けた取り組み	実践交流会	つるみの郷	20名
2月22日	・障がい支援区分のしくみ	中堅研修	下中 敏行 理事 松田 明美 施設長	12名

以上